

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



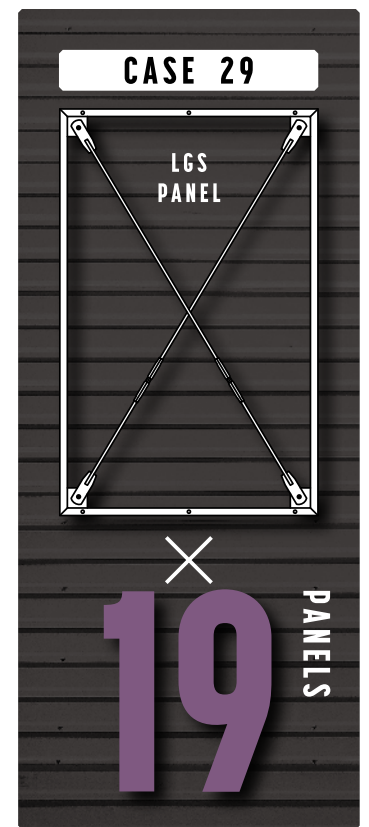
Monthly Theme
RCとLGSシステムのハイブリッド工法が生む桜の下で眠る家

1層目の空間をRC(鉄筋コンクリート造)で作る。それを大きな基礎と見立てて、その上にLGSシステムで平屋を載せるハイブリッド工法。敷地の特性や素材感の適材適所を加味することで、デイトナハウスの可能性はますます広がるのです。

分譲地などでよく見かける台状の土地。もともと山だった場所を切り開いて作られたその宅地は、概ね石垣や土留めに用いる『間知石』を積んだ台の上に家を建てるように設定されています。でも、このような敷地はクルマ & バイク好きには興味が湧かないもの。何故なら道路面からガレージまでのアクセスこそが、彼らにとって重要な要素だからです。

しかしデイトナハウスのハイブリッド工法がそのデメリットをメリットに転化します。台状部分を素直に掘り進め、RCでそこを居住空間化するのです。そして、その上にLGSシステムで構築されたミッドセンチュリーテイストの平屋をさりげなく載っけます。建築基準法的には地下1F、地上1Fの建物。でも道路と同じレベルなので、地下生活者の陰鬱な閉鎖感は一切感じません。そして道路と同一レベルに掘り進めるので、普通の地下を作るよりも安く済むのも大きなメリットです。このような考え方に基づいて現在建築中の実例が、今回ご紹介する『桜の下で眠る家』です。余裕で2台並列に収まるガレージ空間を設け、RCの重厚な素材感を感じながら、上階のLGS工法のリビングで、朝のお茶を飲む。コンクリートと鉄。二つの素材の表情を時間や季節の変化に応じて再発見しながら、永い間愛着の持続する住まいとなっています。お好みでガレージ部分をもっと大きくすることも可能。昨今、1980年代以前に開発された郊外分譲地の住民の高齢化が進み、空き家も目立ち始め、土地価格もかなり下落しています。鉄道の駅や学校や病院などのインフラも整っているのですから、これを生かさない手はないのです。

デイトナが提案する新しい建築のカタチ



What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パワーコーディングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

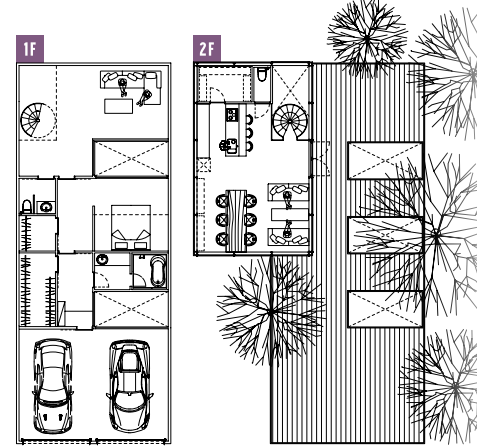
INFORMATION
LDKinc.

代表: 玉田 敦士
 www.ldk.co.jp
 03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデューサー会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

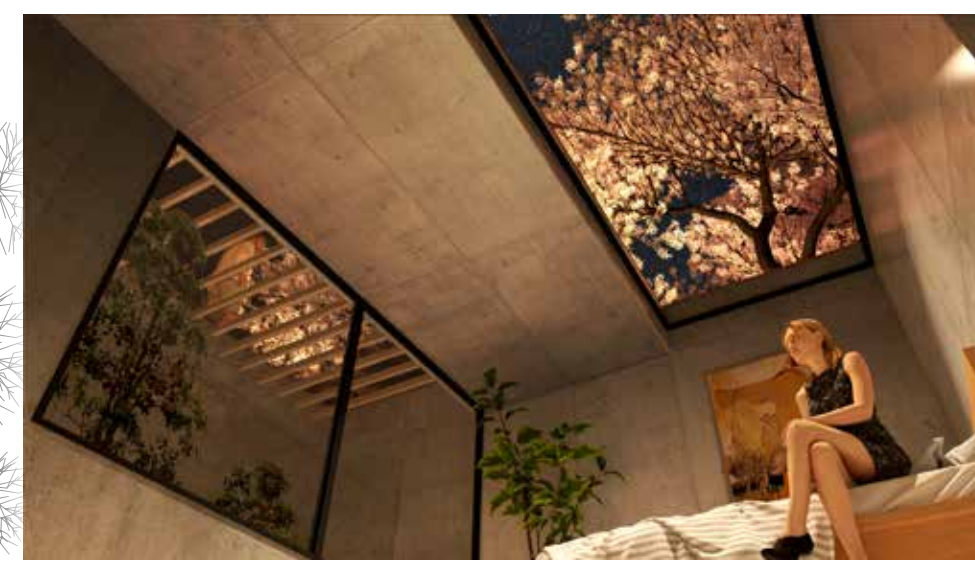
FLOOR PLAN

平面図に記載されたバツ印の部分は、「ドライエリア」と呼ばれるものです。屋根のない地下の半戸外空間、地下にある中庭的なものだと考えてください。各室はドライエリアから通風や換気が取れるのも魅力。ふり上げば、木製ルーバー越しに満開の桜と春の柔らかな青空が。外部の刺激が適切に伝わり、明るく健康な地下室なのです。しかも外部のノイズを遮断するRCならではの特長も兼ね備えているのです。



重厚なRCに守られた寝室の上には天窗が開いていて、桜の季節にはハラハラと散る花びらを見ながら眠る趣向です。昔の人は「桜の下には死者が眠る」と考えていましたが、それは不吉な話ではなくて「繰り返す再生の物語」です。毎日新しい自分に再生することができる寝室なのです。

Bed Room



RCの重厚な土台の安心感の上に載ったミッドセンチュリーテイストのLGS平屋リビング。木デッキベースはまるで航空母艦の飛行甲板。リビングの面積はコンパクトながら仲間を呼んで十分楽しめる開放感を確保。センスの良いランドスケープデザインで“合理的な贅沢”が実現します。

Living

